

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○多様な学習活動の充実
主な取組	青少年交流体験事業		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内の青少年を他県に派遣し、交歓交流・学習の機会を設けることにより、青少年の健全育成を図る。また、他県の青少年と県内小中学生との交流を設け、児童相互の友情をはぐくむ。	県関係団体	青少年交流体験事業の実施		
		派遣児童・生徒数(累計)		
		160人	160人(320人)	160人(480人)
担当部課【連絡先】	こども未来部こども若者政策課 【 098-866-2100 】		関連URL	—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

青少年交流体験事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

補助

7,275

7,368

令和7年度活動内容

令和7年7月に九州へ小中高生を144人、12月に兵庫県へ小中学生80人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設けた。

予算事業名

交流体験事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

補助

7,558

令和8年度活動計画

令和8年8月に九州へ小中高生を128人、12月に兵庫県へ小中学生80人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。

活動指標名

派遣児童・生徒数（累計）

R7年度

R5年度

R6年度

実績値(A)

目標値(B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

—

—

222人

160人

100.0%

順調

令和7年7月に九州へ小中高生を143人、12月に兵庫県へ小中学生79人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設けた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標160人に対し、目標値を大幅に上回る222人を九州・兵庫に派遣し、児童生徒の交歓交流・学習の期間を設けることができたことから「順調」と判断した。青少年の健全育成を図るとともに他県の青少年と県内小中学生との交流の機会を設け、児童相互の友情を育むことができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○参加した児童生徒や関係職員の意見、事前調整での気づきをまとめ、実施内容に反映させる。

○県広報誌や実施主体側のSNS広報等を活用し、事業の認知度向上を図る。

役職員会議や事前研修を通じて、移動時間等を短縮することができ、より多くの経験・学習機会を設けることができた。
実施主体側のSNSを活用し実施内容等を周知することができた一方、県広報誌等で周知広報に取り組むことができておらず、県からより積極的に周知活動を行う必要がある。

- 2 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	関係職員と実施主体側で本事業に関する見識・経験に大きな差があり、実施主体側により細やかな関係資料を求め、連携の円滑化を図る必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	県広報誌や県のホームページ等で、県から主体的に事業の認知拡大に寄与する。また、引き続き実施主体側のSNS広報などを活用する。